

Chapter 1

工業簿記と原価計算

重要度 ★

1-1 工業簿記の意義

工業簿記とはどういうもので、商業簿記とどこが違うのかを学習します。



●工業簿記とはどのようなものか

商業簿記は、商品販売業を営む**商企業**（たとえば家電店、スーパー、洋品店、ディスカウントショップなど）を対象とするものです。つまり、商企業では商品を仕入れ、これをそのまま包装するなどして販売しますが、このような商企業に適用されるのが商業簿記です。

これに対し、**工業簿記**は、石油精製業、製パン業、繊維工業、鉄鋼業など製造業を営む**工企業**を対象とする簿記です。工企業は商企業と異なり材料を仕入れ、これに加工を加えて製品を製造し、それを販売します。工業簿記は、このような工企業の経営活動を秩序正しく記録・計算・整理し、その結果を報告する技術です。一言でいうならば、工企業に適用される複式簿記です。

商業簿記も工業簿記も同じ簿記であることに違いはないのですが、工業簿記では、商業簿記にはない製品の製造にかかわる記録・計算等がつけ加わる点で異なります。

簿記 { 商業簿記……商企業に適用されます
工業簿記……工企業に適用されます

●工業簿記の特色

商企業と工企業の経営活動を比較することにより、商業簿記にはみられない工業簿記の特色が明らかになります。商企業と工企業の経営活動を次図に示します。

ことば

複式簿記とは、企業のすべての取引を、取引の二面性にもとづいて勘定形式により秩序整然と記録・計算・整理し報告する簿記方法です。今日、簿記というと複式簿記が一般的です。

コメント

商品と製品の違いは、一般に次のようにいられています。

商 品……販売するために外部から仕入れたもの。

製 品……販売するために企業内部で製造されたもの。